

インクル

NO.7 令和7年3月10日(月)発行



発行 北海道七飯養護学校
七飯町立七飯中学校

令和6年度の第3学期も残すところ、あと2週間余りとなりました。七飯養護学校と七飯中学校の子どもたちも、いよいよ卒業、そして学年の修了を迎えます。

さて、本モデル事業の今年度の取組も、下記の第2回合同校内研修を終えたことで、ほぼ終了することとなります。今号では、その「第2回合同校内研修」の様子についてお知らせいたします。

～令和6年度 第2回合同校内研修～

2月26日(水)14時30分から、七飯町文化センターを会場に「令和6年度 第2回合同校内研修」が行われました。参加者は七飯養護学校と七飯中学校の先生方に加え、北海道教育委員会特別支援教育課の高石主任指導主事を始め、渡島教育局の早坂指導主事、七飯町教育委員会の鈴木指導主事、檜山指導主事にも御参加いただき、総勢95名の先生方で研修を行いました。

開会に当たって、七飯養護学校北嶋校長より挨拶がありました。

◇七飯中学校と七飯養護学校の教職員及び生徒に対して、本モデル事業一年間の取組における様々な協力に対する感謝が述べられました。

◇令和6年度の成果と課題である下記の内容について説明がありました。

- ・七飯養護学校と七飯中学校という異校種で、生徒と教員が学び合う良さを実感できた。
- ・実態差の大きい生徒間で、お互いが安心でき、また会いたいと思える関係ができた。
- ・教科等のねらいの達成を目的とする「共同学習」の側面について、今後深める必要がある。

◇「七飯中の生徒にお願いしたいこと」として、昨年の11月に七飯中学校第1学年を対象に行った本モデル事業に関する講話の内容について説明がありました。

- ・七飯養護の13人と七飯中の101人で、いっしょにダンスやゲームをします。

→ ①今、何を考え、どうしたいと思っているか理解しようとしてほしい。

②気付いたことや考えたことを、誰かに伝え、自分のこれからの生き方に生かしてほしい。

➡ 将来、皆さんが町の中で、障がいのある人たちと出会ったときに、何か手伝えることはないかと考え、一歩踏み出してくれることを楽しみに。

◇大切にしたい考え方として、本からの言葉を引用し、以下の2点について話されました。

- ・人と人との間で営まれる様々な関係こそ、人間に幸福をもたらす唯一の源泉である。
- ・相手の願いや感情を感知し、意味を理解し、適切に反応することで、相手との関係性は成長し、深まっていく生き物のようなものである。

「ケースワークの原則」F・P・バイスティック著

続いて、令和6年度の本モデル事業の取組内容について、佐藤カリキュラムマネージャーから説明がありました。

◇本モデル事業立ち上げの背景や事業目的の確認

◇本モデル事業の中心となる下記の二つの取組に対する一年間の推進状況

- ・交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討
- ・専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方の検討

説明の後に、今年度行った交流及び共同学習の紹介動画を視聴し、北嶋校長より令和7年度の取組の方向性について説明がありました。



◇交流及び共同学習の考え方について

- ・共に学ぶことの本質的な視点やそのための環境整備の必要性。
- ・交流及び共同学習の取組のキーワードは、「フレキシブル」と「生徒や先生方の主体性」である。例えば、音楽や美術等で交流する場合、全部又は部分的に一緒に行く、リモートで行うなどが考えられる。
- ・交流及び共同学習の内容例として ⇒ 実態差に応じて違うことをする例、みんな同じことをする例。
取組における配慮事項として ⇒ 両校の計画等をあまり変更しない、双方に効果がある関わり方を探る、生徒と教員がアイデアを出し合い、話し合って決める。

◇両校の教員で構成する「インクル実行委員会」を組織し、定期的に話し合う体制作りを行う。

◇次年度の交流及び共同学習も七飯養護中学部第2学年と七飯中第2学年で行うが、七飯中校区の各学校と七飯養護学校の各学部で必要に応じて行う。

◇専門性を高めた授業実施のための体制構築については、相互乗り入れ（行事の見学や授業への参加、相手先で授業を行う等）や合同研修（合同校内研修、ミニ研修等）を七飯養護と七飯中で行うとともに、七飯中校区の各学校にも呼び掛ける。

◇本事業の取組のコアコンセプトは、「七飯養護と七飯中の生徒と教員と一緒に学び、高め合えるようにするポイントをチームで創出し、全国のどこかの学校で『役に立った』と言ってもらうこと」である。

◇グループ協議のテーマは下記の2点であるが、「どのようなことができそうか、どうしたらできるか」を話し合ってもらいたい。話し合いの際には、七飯中第1学年のアンケート結果（来年度、七飯養護の生徒と一緒にしてみたいこと）も参考にしてほしい。

【協議】 ①交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業 ②専門性を高めるための体制構築

両校教員で3～5人のグループを作り、それぞれのグループごとにテーマに基づいて活発に話し合いが行われました。

グループ協議終了後に、「本日の研修を終えての感想」「本モデル事業の一年間の取組についての意見・感想」をそれぞれにスマートフォンで書き込んでもらい、参加者で共有しました。

最後に、七飯中学校細川校長より挨拶がありました。今年度の交流の別れ際にハイタッチをする子どもたちの姿が卒業後も当たり前になってほしいことや次年度も同じ時間と空間を使って活動する中で、一つでも多くお互いの学びになる取組になってほしいこと、教員間もより気軽に交流し合うことで、お互いをもっと知るようになってほしいこと等についてお話いただき、第2回合同校内研修を終了しました。

以下、第2回合同校内研修についての感想と本モデル事業への意見や感想を掲載しました。また、同じような内容や類似した内容は、まとめて掲載しましたことを御了承願います。

【本日の合同研修を終えての感想】

- ・中学校の先生の前向きな意見を聞いて、次年度も楽しみになりました。
- ・次年度の取組について、じっくり考えてみたいです。
- ・七飯中の先生方による違った視点からの意見が聞けて良かった。
- ・七飯養護学校の先生方と、もっと話をする時間が必要だと感じました。
- ・中学校の先生方と意見交流ができて刺激になりました。
- ・栄養教諭、養護教諭のグループで話し合えたので、私達の立場から生徒の様子が交流できて良かった。
- ・動画から、子どもたちの活動が楽しそうで、大変意義ある時間になっていることが伝わってきました。
- ・テーマが二つありましたが、事前に教えてもらえると、もう少し考えがまとまると思いました。
- ・このように、場を共有して話し合いの機会をもつことが大切なんだろうと思った。
- ・校長先生のお話も協議でのお話も大変参考になり有意義でした。協議の時間がもう少しあっても良かったと思います。
- ・違った立場の先生方の話を聞くことができ、勉強になりました。





- たくさんのアイデアを聞くことができ夢が膨らみました。もう少し協議する時間が多い方が充実した研修になると思います。
- お互いの授業や子どもたちの実態を知る機会が必要である。
- お互いに知恵を出し合う機会は大切だと思いました。
- 交流しながら、教科学習に取り組める可能性を感じられました。
- 協議の時間に特別支援学級の先生のお話が聞けて良かったです。

- 理科や社会の教科担当者から、教科を通した共同学習の案を出していただいて大変参考になった。
- 互いの学校の達成目標から教科を考えていくことが大切かもしれないと感じました。
- すぐにでも取り組むことができそうな話合いができました。実り多き研修でした。
- 七飯中のインクルーシブ担当の先生から直接お話をお伺いでき、貴重な時間となりました。
- 同じグループで七飯中第1学年担当の先生の話聞くことができ、今後のイメージをもつことができた。
- 本音が話せました。人数比が気になります。いつでも互いに全員参加にしないでいいと思います。本校の教師の数を制限し、七飯中の教師の数と同じくらいにして、あとはオンライン参加でどうだろうか。
- 中学校の先生のお話がたいへん興味深く、アイデアを頂きました。
- 「導入、展開、まとめ」のどこかでは、何かの学習で一緒に行えるかなと思った。
- 難しいと感じていたことが、交流を通してできることが意外と多くあると感じた。

【本モデル事業の1年間の取組についての意見・感想】

- 生徒の姿から、この取組の達成感と喜びをもらいました。
- 中学校、養護学校共に実りある研修であることが伝わりました。
- 両校の先生方の交流や授業を見合うことかできたのは良かったと思います。
- お互いの生徒の中に、今までになかった知見や考え、刺激など、何か一つでも得られたのではないかと感じています。
- 運営として動いてくださった先生方は、とても大変だったと思いますが、交流を楽しめている生徒、回を重ねるごとに成長した生徒、保護者からの良かったとの感想が多かったので、とても良かったと思います。
- 様々な視点からアイデアが出て勉強になりました。
- 成果を実感しました。
- 各校が協力することで、新しい発見や子どもたちの成長に生かせることが分かった。
- もう少し情報と目標の共有が必要だと感じました。
- 大きな意味のある一步を踏み出せたと思います。あとは、これを全職員でどう推進していけるかだと思いました。
- 両校の生徒たちの生き生きとした姿を見られたことが大きな成果だと思っています。お互いにとって、生きる力のレベルアップにつながっていくと思います。
- 交流を通して、中学生が感じた本校児童への理解が深まったことが、とても意味あることだと思った。
- お互いに、生徒も教員も交流が必要だと感じた。
- 良い活動だと思うので、3年後、両校の子どもたちがどうなっていたら目標達成なのかというのを、保護者や子どもたちに見える化できたら良かった。
- 生徒たちにとって良い経験だったと思う。次年度以降も、生徒が良かったと思える活動であってほしい。
- 七飯中の生徒が七飯養護の生徒のお世話をする、助ける、という立場ではなく、七飯養護の生徒が七飯中の生徒の力になるような、お互いに高め合う活動で在りたいと思いました。
- 難しい1年でした。再度考え直しながら、より良いものにできればと思います。



- ・取り組もうとして、取り組んでみたこと自体が素晴らしい。
- ・両校の先生方が何度も話し合い、子どもたちにとって効果的な学習を進めることができたと思います。
- ・動画を見て感動しましたが、関わりが少なかったためか、お互いの学校の目指すものがよく分からなかった。
- ・中1担当者の苦勞が見えました。
- ・良かったと思う。理由は、小中学校と学びを積んできた今の子どもたちは、昔の生徒よりは道徳的だし人権についても考えているので、インクルーシブ教育にふさわしい世代に生きているのだと思います。
- ・七飯中学校の生徒が2回目に自主的に動いている様子を見て、複数回やる必要性を感じた。また、七飯養護学校の生徒も複数回行うことで、見通しをもって取り組むことができたのが良かった。
- ・教科と関連となると、一気に難しいなと思いました。
- ・まだ七飯中と七飯養護の生徒が、してあげる側、してもらう側の関係になっているので、次年度以降にその関係に変化を起こせたらいいなと思います。
- ・動画や生徒の感想から、活動の様子を知ることができて良かった。
- ・取組を中1に任せて、中1に取組の主体をもたせる、若しくは、分掌業務に位置付けるなどが望ましいし、分掌で知恵を出し合うのがいいと思いました。改善があるといいです。
- ・とても良い機会を頂きました。子どもたちもやりがいをもっていました。

(文責：佐藤耕一カリキュラム・マネージャー)

